

2019年に阪急交通社の海外ツアーに参加して以降、毎週国内外観光のパンフレットが送られてきます。中でも海外旅行初心者向けツアーは食事も付いて手ごろな価格設定が多く、今回もその中から「憧れのフランス6日間」というプランに申し込みました。

ツアーの募集要項には福岡発着添乗員同行とあったので気楽に考えていたのですが、出発の1週間程前に同行する添乗員さんから電話があり、「福岡発着は和田さんお二人だけです。香港空港のフランス行き飛行機の出発搭乗口で合流するので、そこまで出入国審査をして来てください。私と他の参加者は名古屋発着です。」と言われ、メールで送ってきた香港空港の見取り図などを見ながら1時間くらいかけて、香港空港到着後の入国審査や乗り換えの仕方など細々と説明がありました。不安にもなりましたが、いい事前学習の機会になりました。

2024年9月23日、17時40分に1時間遅れで福岡空港を出発。すぐに機内食が出てアツツという間に香港到着20時30分。「TRANSFER」の案内表示を追って、何とかパリ行き便の搭乗口で添乗員さんや名古屋からの参加者と合流できました。23時50分香港空港出発、約13時間30分の飛行中は2度の機内食以外はとにかく寝る。朝7時30分ごろパリ到着。フライトの間3回トイレに行きましたが、隣の金髪の青年は1度も席を立ちませんでした。

9月24日、シャルルドゴール空港から専用の大型バスでモンサンミッシェルへ。ポン＝レヴェックという田舎のレストランで昼食をとり、16時30分ごろモンサンミッシェル到着。しかし、添乗員さんと現地ガイドとの連絡に行き違いがあり修道院の入館時間の17時までに旅行者全員が揃わず、懸命にガイドが交渉するも目の前でロープを張り係員の女性は帰ってしまう。結局、修道院の外の数カ所の見学と説明があり解散、各自でシャトルバスか歩いてホテルに帰ることになりました。私たちは潮の引いた湾や夕景を楽しみながら30分ほど歩いて帰りました。

9月25日、急遽予定を変更して前日拝観できなかったモンサンミッシェル修道院内の観光をしました。日程の変更はありましたが、目玉の一つである修道院を見学できて皆さん満足そうでした。





11時ごろモンサンミッシェルを出発し、途中のSAで各自昼食を買いバスの中で食べながら、15時過ぎにヴェルサイユ宮殿に到着。宮殿の建物内への入り口は大混雑で、先に広大な中庭を見学して16時過ぎにようやく宮殿内の見学ができました。フランス在住20年の東北出身の現地ガイドさんの説明はとても分かりやすく、宮殿内の素晴らしい歴史のある調度品や絵画の品々に圧倒されました。人混みに巻き込まれながらも2時間弱の見学はアッという間に終わりました。



オリンピックの馬術競技があった宮殿の広大な庭





9月26日、エッフェル塔の撮影ポイントでポーズを決めた後、ルーヴル美術館へ向かいました。20万点以上のコレクションを誇る館内は、観光ガイドの説明は許されていないため、各自での見学です。事前に案内図をもとに有名な美術品のある場所を教えてください「集合時間までの約2時間でミッションをクリアしてください。」と送り出されました。

オリエンテーションのようにつつい急ぎ足になってしまいましたが、ミロのヴィーナスやモナリザなど多くの観光客がひしめき合う中で鑑賞することができました。残念ながら自分自身が、絵画や彫刻などの芸術作品の素晴らしさがよく理解できないため、「有名な作品の実物を見た！」とっいだけで、感動や興奮を覚えないのが悔しい。



全て見ようと思ったら一週間以上必要と言われています。主要作品だけでも3～4時間は必要だそうです。モナリザの前は行列ができていて、ロープが貼られ、数人の警備員が厳しく監視していました。



当初の予定では、午後は自由時間の予定でしたが、前日の変更で行けなかったシャルトル大聖堂に行きました。近年、ヨーロッパでも気象異常がよくあるそうで途中の集中豪雨の影響で時間が下がり、昼食は午後3時頃。しかも一帯が停電で、蠟燭が灯された薄暗いレストランでの食事となりました。海外ではあるあるの、よい思い出となりました。

1979年に世界文化遺産に登録されたシャルトル大聖堂の見学後は、パリに戻るバスの途中で綺麗な大きい虹が出て車中が賑やかになりました。パリ市内のレストランで夕食を済ませ、夜のセーヌ川クルーズは22時スタートと、かなり遅くなりました。エッフェル塔の真下の乗船場の前は、夜になっても長蛇の列で、イヤホンから流れる日本語の観光ガイド聴きながら、川面に映るライトの光、川沿いのベンチで肩を寄せ合う人影、ライトアップされた建造物など、ほろ酔い気分で日常では味わえないゆったりした時間を楽しみました。

セーヌ川は川幅も広く流れは緩やかで、場所的には良いかもしれませんが、昼の明るい時間でも水の透明度は低く、泳ぎたくない水の色でした。オリンピックのトライアスロン競技の選手も、できれば泳ぎたくなかっただろうと思いました。





9月27日、フランス4日目の朝は慌ただしく、6時に起床。過去の海外旅行で美味しいジャムを機内持込み用のバッグに入れていたため没収された苦い経験と重量オーバーで追加料金が取られないように考えながら荷物や土産品の詰め替えをしました。

7時からの朝食前にスーツケースを預け、8時にホテルを出発して空港へ向かいました。見納めになる凱旋門やコンコルド広場、オリンピック・パラリンピックが開催されたスタジアムなど車窓から眺めながら、また来るチャンスがあるかな？等とぼんやり考えていました。

空港では、タッチパネルの発券機で座席の指定と預ける荷物のタグを自分で出さなければならず、いろいろ教えてもらいながらなんとかクリアし、お土産や機内での飲み物などを買い、換金していたユーロを使い切りました。2019年のコロナ流行前は、120円程だったユーロが5年後の今回は約160円で、ちょっと損をした気もしますが、お金に変えられない貴重な経験をすることができました。また、今回のツアーは、お一人様が2名、3名の友人組が2組、祖父と孫・母と娘が1組ずつ、それ以外は年配の夫婦という構成でした。食事の時以外あまり会話はできませんでしたが、旅慣れた方も多く良い刺激になりました。

「次は娘たちお勧めのドバイかペルーがいいねー」と話していましたが、先日小園夫妻の世界一周報告会での話を聞き、船の旅にとっても興味が湧きました。ようやく出来つつある自分の時間を、健康で元気なうちに楽しみたいと思います。最後まで読んでいただきありがとうございました。

